

2004年8月

会員各位

日本ファイナンス学会
会長(新) 川北 英隆

第12回大会および会員総会報告

日本ファイナンス学会第12回大会は、5月29～30日の両日に中央大学後樂園キャンパス5号館において開催され、岸真清大会委員長をはじめとするプロコミの皆様ならびに主催校の関係者のご尽力により、熱心な議論とともにスムーズな大会運営が実現し、成功裡に幕を閉じることができました。関係各位に心より感謝する次第です。今回は、応募論文61本を数えて過去最高となるとともに、参加者数も500人に迫る勢いとなり、たいへん喜ばしいものでした。

また、大会開催中の5月29日午後4時50分より平成16年度会員総会が開かれ、別添資料の各議案が審議されました。重要事項、審議の概要は以下のとおりです。

- (1)第6期執行部案(資料8)が承認されました。本年2月の理事選挙の結果をうけて形成された新執行部体制が、資料8のとおり承認されたわけです。任期は16～17年度。
- (2)学会規約の一部改訂案(資料7)が承認されました。この結果、「学生会員」規定が削除されたほか、新入会員推薦制度が改訂されました。
- (3)次期17年度大会は横浜国立大学で開催されることが提案され、承認されました。
- (4)平成15年度活動報告が資料1～4のとおり説明され、原案どおり承認されました。
- (5)平成15年度会計報告・監査報告が、提案(資料5)どおり承認されました。
- (6)平成16年度予算(資料6)が提案され、原案どおり承認されました。

以上が、大会ならびに会員総会の簡単な報告です。新執行部は、皆様のご協力を得て学会運営に邁進するとともに、会員各位の研究活動が実り多いものであるよう祈念しております。学会活動についてご意見ご質問等あれば事務局までお寄せいただければ幸いです。

以上

日本ファイナンス学会第12回大会
会員総会議題

日時：平成16年5月29日（土）午後16：50

会場：中央大学後楽園キャンパス5号館5533教室

1. 平成15年度活動状況の報告
 - ・会員状況（資料1）/P.3
 - ・学会誌の発行状況（資料2）/P.4
 - 現代ファイナンス*
 - International Review of Finance*
 - ・第11回大会報告（資料3）/P.6
 - ・研究観望会報告（資料4）/P.8
2. 平成15年度会計報告・監査報告（資料5）/P.9
3. 平成16年度予算（資料6）/P.17
4. 学会規約改正の件（資料7）/P.19
5. 新執行部の承認について（資料8）/P.20
6. 次期2005年第13回大会開催校について

以上

資料 1

日本ファイナンス学会 会員状況

平成 16 年 5 月 29 日(土)

	2004 年度	2003 年度	2002 年度	2001 年度
正会員	1137 名	1123 名	1117 名	1127 名
学生会員	209 名	190 名	173 名	124 名
会員数	1346 名	1313 名	1290 名	1251 名
特別賛助会員	26 社	32 社	32 社	33 社
純法人会員	31 社	24 社	22 社	23 社
法人会員合計	57 社	56 社	54 社	56 社

※海外会員 31 名

●新規加入 2004 年 5 月 25 日現在

	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年
法人会員	2 社	2 社	6 社	2 社
個人会員	50 名	56 名	116 名	125 名

●退会者 2004 年 5 月 25 日現在

	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年
退会者	42 名	30 名	137 名	55 名

●自動引落会員（個人会員）

	2004 年	2003 年	2002 年度	2001 年度
(自動引落会員)	503 名	487 名	486 名	448 名

学会誌発行状況

1 『現代ファイナンス』に関する報告

● No.14 (2003年9月発行)

投稿論文数 合計 26本 (大学関係者 22本、実務家 4本) (所属は執筆時)

審査結果 (掲載 4本、掲載不可 11本、継続審査 11本)

No.14 掲載論文

小倉誠/本多俊毅「確率的な金利変動と最適アセットアロケーション」

小林孝雄/池田亮一/長谷川洋一郎「変額年金保険の評価－Valuing Variable Annuities－」

山分佐知子「日本における株式新規公開に関する実証分析」

井坂直人/齊藤誠「大規模マクロショック後の流動性回復メカニズム－米国同時多発テロ直後の東京証券取引所－」

● No.15 (2004年3月発行)

投稿論文数 19本 (大学関係者 15本、実務家 4本) (No.14等への投稿論文の継続審査分を含む)

No.15 掲載論文

井坂直人「空売り制約と株価の情報効率性：業績予想修正発表のイベント・スタディー」

砂川伸幸「株式持ち合い解消のシグナリング・モデル」

加藤英明/高橋大志「天気晴朗ならば株高し」

田中敬一「不完備市場における消費と資産価格の一考察」

● その他の事項

2004年4月から『現代ファイナンス』の編集者は倉澤資成、小林孝雄、高橋明彦、谷川寧彦 (以上、NFA 選出)、浅野幸弘、新井富雄、宇野淳、江口高顯 ((以上、MPT 選出) の8名になりました。

2 *International Review of Finance* 誌に関する報告

● Vol.3, No.1, March 2002

配布年月：2003年4月

部数：1,600部

掲載論文 3本

Peter Clarkson, Vanitha Ragunathan and John Nowland “*The Relative Importance of Domestic and Global Factors in Explaining Australian Stock Returns*”

Padma Kadiyala and Avanidhar Subrahmanyam “*Foreign Firms Issuing Equity on US Exchange: An Empirical Investigation of IPOs and CEOs*”

Nobuyuki Isagawa “*Managerial Opportunism and Capital Structure Adjustment: Equity-for-debt Swap and Convertible Debt*”

● Vol.3, No.2, June 2002

配布年月：2003年10月

部数：1,600部

掲載論文 3本

Stijin Claessens and Joseph P.H. Fan “*Corporate Governance in Asia: A Survey*”

Yuk Ying Chang and Sudipto Dasgupta “*What Explains Cross-country Industry Growth Patterns? Trade, Development and the Equity Financing Channel*”

Bernardo Bortolotti, Marcella Fantini and Carlo Scarpa “*Why Do Governments Privatize Abroad*”

現代ファイナンス2003年度収支報告

2004/4/22

[収入]	2002年度繰越金			2,670,834
	2003年度出資金	MPTフォーラム	¥2,200,000	4,400,000
		日本ファイナンス学会	¥2,200,000	
	広告収入	日経QUICK情報	¥210,000	262,500
		東洋経済新報社	¥52,500	
	預金利息			32
2003年度総収入				7,333,366

[支出]	「現代ファイナンス」制作費	No.13	¥2,119,076	3,790,281
		No.14	¥1,671,205	
	支払手数料			2,480
	通信費、他			320
	「現代ファイナンス」売上分をMPTフォーラム口座へ振替			136,135
2003年度総支出				3,929,216

次年度繰越金 3,404,150

資料 3

日本ファイナンス学会 第 11 回大会（武蔵大学江古田）報告

第 11 回大会プログラム委員会
委員長 丸 淳子

2003 年 6 月 7～8 日開催された第 11 回大会は、過去最高の応募論文数ならびに参加者数を得て、成功裡に終了することができました。ご関係各位に感謝申し上げますとともに、大会概要について、以下のとおりご報告申し上げます。

1 参加状況

参加申込：444 名（前年比 4.47%増）（うち個人 330，法人 53，特別賛助 61）

当日出席者：410 名（前年比 12.02%増）（うち個人 323，法人 43，特別賛助 44）

今回、申込ベースは前年比 4.47%増ですが、実際参加者は 44 名、12.02%増加しました。個人のうちには、非会員が「Web ページで見た」「会員の推薦で」といったぐあいに当日現れた人が含まれますが、60 名増加を見ました。全般に、増加傾向が見られました。

2 論文報告

研究報告数：42（前年比 10 増）、応募数 45（同 13 増）。

特別招待講演：Ravi Jagannathan, CME Distinguished Professor of Finance,
Kellogg School of Management, Northwestern University.

応募論文数が増加し、参加者も含め、研究層のたしかな広がりを感じられました。

3 会計報告（別紙大会収支表参照）

(1)総収入は大学補助と懇親会費合わせて 476,000 円と例年なみ収入でしたが、第 11 回大会（10 周年）を記念した特別招待講演を開催し、講師旅費宿泊費 444,820 円が特別に支出されたため、総費用が 2,872,950 円（前年比 26.5%増）となりました。なお、これは第 8 回（上智）と同じ規模です。この結果、前回に比べ 453,917 円増加し、学会会計負担（赤字）は 2,396,950 円となりました。

(2)そのほか支出の主要費目についてみると、以下の特徴があげられます。

- ・ 予稿集印刷費が論文 10 本、120 ページ増加したため、用紙の変更を含め、149,625 円増加しました。また郵送料等は、会員が 1300 人を超えたため、比例して増加しています。
- ・ 事務局に代わり武蔵大学サイドで多くの準備を進めたため、アルバイト料が増加しましたが、その分懇親会費用の低減により埋め合わされ、さらに全ての会場費がゼロであったことが貢献しております。

この結果、論文数の増大、参加者数の増加、特別招待講演開催にもかかわらず、総費用、学会会計負担(赤字)とも、過去 5 年平均規模にほぼ収まりました。

以上

日本ファイナンス学会第11回大会収支
(武蔵大学、2003年6月7～8日)

収入

武蔵大学補助金	200,000
懇親会費	276,000
<hr/>	
収入合計	476,000

支出

各種印刷費	1,077,510
予稿集作成費	832,860
大会プログラム・葉書(封入費含)	168,000
ポケットカード作成費	21,000
大会総会・特別講演資料	55,650
郵送料等	194,320
大会案内送料	112,930
参加者宛案内送料	11,390
大会出欠用返信葉書	65,000
荷物運搬費	5,000
案内板作成費	21,976
招待講演者経費	444,820
飾生花	20,000
休憩室用飲料等一式	45,709
アルバイト料	384,000
学生	224,000
社会人	160,000
弁当代	84,000
懇親会費	579,615
武蔵大学	544,710
関係者懇親会	34,905
その他事務費	21,000
事務局前泊費	15,901
事務用品	5,099
<hr/>	
支出合計	2,872,950
収支差	-2,396,950

資料 4

2004/5/29

研究観望会活動報告

代表幹事 竹原 均

2003年6月～2003年5月において第8, 9回研究観望会を開催した。
ともに盛況裡に終了するとともに、会員のための研究交流に資することができた。

1 第8回研究観望会

日時：2003年12月17日

報告者：大野早苗（高千穂大学商学部）

テーマ：「国際証券市場における伝染効果の検証」

会場：学術総合センター2階会議室
東京都千代田区一ツ橋2-1-2

出席：61人（個人53、法人関係8）（受付ベース）

2 第9回研究観望会

日時：2004年2月18日

報告者：今井潤一（岩手県立大学総合政策学部）

テーマ：「ファイナンスにおける（準）モンテカルロ法の発展」

会場：学術総合センター2階会議室
東京都千代田区一ツ橋2-1-2

出席：70人（個人51、法人19）（受付ベース）

以上

資料 5

平成 16 年 5 月 29 日

日本ファイナンス学会
会 員 各 位

日本ファイナンス学会
監事 高橋明彦 倉田勲
本多俊毅

平成 15 年度会計報告ならびに監査について

1 本会計報告は、円とドルの二元併記になっております。また、今年度会計は収入支出の費目の変更を行っておりませんので、昨年度と同じ構成です。

2 さて、平成 15 年度の総収入をみると、まず会費収入は法人関係会費の減少（対前年比 55 万円減）がみられるものの 1478 万円になりました。それに前年度繰越金 1395 万円およびその他収入（67 万円）を加え、収入総額は 2941 万円となりました。一方、支出総額は 1215 万円にとどまったので、収支尻（次期繰越金）は 1726 万円（同 23.6%増）を確保することができました。

3 15 年度の収入状況を詳しくみると、個人会費がほぼ昨年並みの会費収入がもたらされた点ではたいへん健全な結果でした（1150 人相当）が、前々年度からみられた金融機関の経費削減の影響を強く受け、特別賛助会員等法人会費が減少したことが痛手（55 万円減）となって会費収入が減少しました。しかし学会誌売上、予稿集売上等は若干増加したこともあります。前年度からの繰越金に助けられて総収入で前年度比 59.5 万円増加する結果となりました。

4 一方、支出は、2 年おき発行の会員名簿、入会案内パンフレットの印刷費が今年度はなく、IRF 支払いのため外貨勘定繰入れもなかったことにより、総支出は 270 万円減少して 1215 万円にとどまりました。この結果、前述のとおり、収支尻（繰越金）を 1726 万円（23.6%増）残せることになりました。

5 外貨(US\$)勘定では、今年度は円勘定からの繰り入れがなく、繰越金\$68,468-に若干の利息収入を加えて、総収入は\$68,728-となりました。しかし支出では、IRF 誌 2 号分\$20,000-を支払ったため、手許残高は\$48,728-となりました。これは、IRF 4 号分、一年支払分に相当します。

6 現在の金融機関をめぐる環境からすれば、法人会費の減少は（かつて会費の半分を占めていた）なお続くと見られ、予断を許しません。加えて IRF 誌の維持や国際大会の開催等のための米ドル積立てが必須であることなどを考えれば、会計事情はきびしい状況にあるといえます。

7 以上、会計処理について正確かつ適正に処理されていることを承認するとともに、監査の結果を報告する次第です。

以 上

日本ファイナンス学会平成15年度 決算会計報告
(平成15年4月1日～平成16年3月31日)

収入		支出	
<円勘定>		<円勘定>	
A 前年度繰越金	13,957,924	H 郵送料(郵便、宅配便等)	1,173,874
B 会費	14,785,000	I 電話・通信費(プロバイダー費用含)	208,144
学生会員	5,000 × 105 = 525,000	J 発送作業費	95,412
正会員	8,000 × 552 = 4,416,000	(発送代行業者への支払等)	
法人会員	50,000 × 30 = 1,500,000	K 学会案内等印刷費	117,600
特別賛助会員	200,000 × 18 = 3,600,000	L 理事会運営費	226,212
	300,000 × 1 = 300,000	(理事会開催費・お弁当代等)	
	500,000 × 1 = 500,000	M 封筒・用箋等作成費	208,530
みずほファクター振替分	3,944,000	N 第11回大会費	2,872,950
C 大会費	476,000	(案内・報告要旨印刷・筆記具・昼食等)	
大会補助金(武蔵大学より)	200,000	O 第12回大会準備費	287,046
懇親会費	4,000 × 69 = 276,000	P 学会誌作成費	2,200,000
D 円預金利息	148	(現代ファイナンス)	
前期 H15.8.18	66	Q 事務用品購入費	44,332
後期 H16.2.16	82	(PCソフト・プリンタートナー等)	
E 学会誌売上	142,790	R アルバイト料	2,999,200
現代ファイナンス	113,110	S 研究観望会費(3回)	1,559,231
IRF	29,680	(研究奨励金、資料印刷費、交通費等)	
F 大会予稿集売上	41,150	T 手数料支払	111,037
(切手支払による1件を含まず)		(みずほファクター、送金手数料等)	
G その他	10,200	残高証明発行手数料	630
IRF投稿審査料	10,200	みずほファクター手数料(4回)	93,637
		IRF通関手数料(2回)	14,000
		振込、送金手数料	2,100
		U その他	50,000
		アナ協H15会費	50,000
A+B+C+D+E+F+G 日本円合計	¥29,413,212	H+I+J+K+L+M+N+O+P+Q+R+S+T+U 日本円合計	¥12,153,568
		残 高	¥17,259,644 *
		*内訳	
		預金(みずほ銀行 H16.3.31)	¥17,196,563
		現金有高	¥63,081


(次ページへ続く)


収入		支出	
<US\$勘定>		<US\$勘定>	
a 前年度繰越金	US\$68,468.40	e IRF購入費	US\$20,000.00
b 外貨普通預金利息	4.99		
前期 H15.8.17	2.55		
後期 H16.2.16	2.44		
c 外貨定期預金利息	142.67		
H15.6.26	14.93		
H15.7.16	75.31		
H15.10.16	10.08		
H16.1.16	42.35		
d 外貨MMF	112.10		
H15.4.28	10.87		
H15.5.29	10.37		
H15.6.27	9.84		
H15.7.30	8.16		
H15.8.28	8.66		
H15.9.29	9.44		
H15.10.30	9.22		
H15.11.26	8.54		
H15.12.24	10.03		
H16.1.29	9.29		
H16.2.26	8.17		
H16.3.30	9.51		
a+b+c+d US\$合計	US\$68,728.16	e US\$合計	US\$20,000.00
		残 高	US\$48,728.16 *
		*内訳	
		普通預金(みずほ銀行 H16.3.31)	10,559.39
		定期預金(みずほ銀行 H16.3.31)	16,000.00
		MMF(みずほ信託銀行 H16.3.31)	22,168.77


平成16年 5月 20日

日本ファイナンス学会

正確かつ適正であることを認めます。

倉田 勲 

高橋 明彦 

本多 俊毅 

〒160-0007
 東京都 新宿区 荒木町
 2-3 キンザイセミナーハウス 1F

日本ファイナンス学会
 会長 池尾 和人

様

(0016045)*

2004年 4月 2日



株式会社 **みずほ銀行**

四谷支店

〒160-0004
 東京都 新宿区 四谷三丁目
 3番地1

TEL 03-3351-6151



残高証明書

2004年 3月 31日 現在

貴名義の下記勘定残高について相違ないことを証明いたします。

科目	口座番号	金額 (円)				備考
普通預金	1743750			*17196563		
		***	以下余白	***		

(同文のもの 1通発行のうち第 1号) - 01

(ご注意) この証明書の金額は訂正いたしません。

54159A 1998.C4

残 高 証 明 書

160
東京都 新宿区 荒木町
2-3 キンザイセミナーハウス 1F

日本ファイナンス学会
会長 池尾 和人 様

2004年 3月 31日 現 在

(通貨種類を金額頭部に表示し、補助通貨金額は、※欄に表示します。)

科 目	口 座 番 号	金 額						備 考
							※	
外貨普通預金	701434					US\$1055939		
外貨定期預金	1033567					US\$1600000		
			***	以下余白	***			

貴名義の上記勘定残高について相違ないことを証明いたします。

MIZUHO 2004年 4月 5日
みずほ銀行
四谷支店



(ご 注 意) この証明書の金額は訂正いたしません。

(包, 後, 郵)

取引残高報告書

重要

いつもお引立ていただきありがとうございます。

あなたさまからお預りしております投資信託の「お取引明細」及び「お預り残高」につきまして、
下記のとおりご報告いたします。

なお、ご不審な点がございましたら直接お取引店の支店長等責任者までご連絡ください。

お客様番号	名義	口座番号
48317366	1	2008840

160-0007 東京都新宿区

荒木町2-3
社団法人 金融財政事情研究会内

日本ファイナンス学会 御中

みずほ信託銀行

お取引店
新宿支店

483-026-9046*000

電話 03-3350-2761

ページ 1

****< お取引明細 >****				[記載期間 平成16年 1月 5日 から 平成16年 3月31日]		
受渡日	約定日	銘柄名	取引	数量 単価	手数料 税 額	受渡金額
1/30	1/29	GS米ドルMMF (USTドル建外国投信)	再投資	929口 0.01 トドル	0.00トドル 0.00トドル	9.29 トドル
2/27	2/26	GS米ドルMMF (USTドル建外国投信)	再投資	817口 0.01 トドル	0.00トドル 0.00トドル	8.17 トドル
3/31	3/30	GS米ドルMMF (USTドル建外国投信)	再投資	951口 0.01 トドル	0.00トドル 0.00トドル	9.51 トドル

****< お預り残高 >****				[平成16年 3月31日 現在]		
種類	銘柄名	残高数量	評価単価	評価金額(円)	摘 要	
外国累積投資	GS米ドルMMF	2,216,877口	0.01 USTドル	2,343,017	為替 105.69円	

- 以上 -

参考

日本ファイナンス学会平成14年度 決算会計報告 (平成14年4月1日～平成15年3月31日)

収入		支出	
<円勘定>		<円勘定>	
A 前年度繰越金	12,818,675	H 郵送料(郵便、宅配便等)	1,198,350
B 会費	15,505,000	I 電話・通信費(プロバイダー費用含)	299,818
学生会員	5,000 × 99 = 495,000	J 発送作業費	49,432
正会員	8,000 × 595 = 4,760,000	(発送代行業者への支払等)	
法人会員	50,000 × 21 = 1,050,000	K 学会案内等印刷費	864,202
特別賛助会員	200,000 × 23 = 4,600,000	L 理事会運営費	265,648
	300,000 × 1 = 300,000	(理事会開催費・お弁当代等)	
	500,000 × 1 = 500,000	M 封筒・用箋等作成費	86,520
富士銀ファクター振替分	3,800,000	N 第10回大会費	2,273,643
C 大会会費(懇親会費)	327,000	(案内・報告要旨印刷・筆記具・昼食等)	
一次会	4,000 × 66 = 264,000	O 第11回大会準備費	303,495
二次会	3,000 × 21 = 63,000	P 学会誌作成費	3,300,000
D 円預金利息	1,273	(現代ファイナンス)	
前期 H14.8.18	1,202	Q 事務用品購入費	115,449
後期 H15.2.16	71	(PCソフト・プリンタートナー等)	
E 学会誌売上	115,660	R アルバイト料	2,719,305
現代ファイナンス	88,248	S 研究観望会費(2回)	678,749
IRF	27,412	(研究奨励金、資料印刷費、交通費等)	
F 大会予稿集売上	44,000	T 手数料支払	198,073
(切手支払による4件を含まず)		(富士銀ファクター、送金手数料等)	
G その他	6,000	残高証明発行手数料	370
会費不足分収入	中泉(¥2,000は前年度領収済)	みずほファクター手数料(2回)	96,494
	6,000	IRF通関手数料(2回)	94,772
		振込、送金手数料	6,437
		U その他	80,000
		アナ協H14会費	50,000
		誤入金返金	30,000
		V 外貨勘定へ繰入れ(定期\$20,000)	2,427,000
A+B+C+D+E+F+G		H+I+J+K+L+M+N+O+P+Q+R+S+T+U+V	
日本円合計	¥28,817,608	日本円合計	¥14,859,684
		残 高	¥13,957,924 *
		*内訳	
		預金(みずほ銀行 H15.3.31)	¥13,734,744
		現金有高	¥223,180

(次ページへ続く)

収入		支出	
<US\$勘定>		<US\$勘定>	
a 前年度繰越金	US\$68,021.44	f IRF購入費	US\$20,000.00
		Vol.2 No.3~No.4 (H14.11.25)	20,000.00
b 外貨普通預金利息	25.42		
前期 H14.8.18	14.46		
後期 H15.2.16	10.96		
c 外貨定期預金利息	237.01		
H14.4.16	53.27		
H14.10.16	115.76		
H15.1.16	41.94		
H15.3.26	26.04		
d 外貨MMF	184.53		
H14.4.26	18.84		
H14.5.30	17.80		
H14.6.27	16.02		
H14.7.30	18.48		
H14.8.29	16.44		
H14.9.30	16.64		
H14.10.30	16.51		
H14.11.27	12.95		
H14.12.24	13.85		
H15.1.30	13.43		
H15.2.27	11.37		
H15.3.28	12.20		
e 外貨定期預金(2002.12.26)	20,000.00		
(円勘定より繰入れ)			
a+b+c+d+e		f	
US\$合計	US\$88,468.40	US\$合計	US\$20,000.00
		残 高	US\$68,468.40 *
		*内訳	
		普通預金(みずほ銀行 H14.3.31)	10,411.73
		定期預金(みずほ銀行 H14.3.31)	36,000.00
		MMF(みずほ信託銀行 H14.3.31)	22,056.67

平成15年5月1日

日本ファイナンス学会

正確かつ適性であることを認めます。

倉田 勤

本多 俊毅



高橋 明彦

資料 6

平成 16 年 5 月 29 日

日本ファイナンス学会
会 員 各 位

日本ファイナンス学会

平成 16 年度予算について

- 1 「平成 16 年度予算書(案)」は別紙のとおりである。
- 2 まず収入については、中心である個人会員からは 900 人分を収入として見積ったが、法人会員・特別賛助会員については最近の不況の影響で金融機関の退会がいくつか見込まれるため、控えめに見積った。収入の基本である会費収入は、この結果、1275 万円となった。繰越金 1726 万円、その他収入と合わせ総収入 3051 万円を計上した。
- 3 一方、支出は、今年度に会員名簿、入会案内等の発行が予定されるため、印刷費、発送費の増加が見込まれる。また、IRF 誌購入のため 336 万円を外貨勘定に繰入れ計上した。そのほかは、例年なみの支出を計上した結果、総支出は 1766 万円の見込みとなった。
- 4 以上から、翌年繰越金が 1285 万円と見込まれるが、法人会員の落ち込みなどの不安のほか、国際大会のための蓄積、IRF 誌購入費の積立など財務運営に慎重な配慮をむけなくてはならない。

以上

日本ファイナンス学会平成 16 年度
予 算 書

平成 16 年 5 月 29 日

収入		支出	
<円勘定>		<円勘定>	
A 前年度繰越金	17,259,644	E 郵送料	1,200,000
B 会費	12,750,000	F 電話・通信費	300,000
5,000 × 100 =	500,000	G 発送作業費	200,000
8,000 × 900 =	7,200,000	H 学会案内等印刷費	1,200,000
50,000 × 25 =	1,250,000	I 理事会運営費	300,000
200,000 × 15 =	3,000,000	J 封筒・用箋等作成費	250,000
300,000 × 1 =	300,000	K 大会経費	3,000,000
500,000 × 1 =	500,000	L 学会誌作成費	2,200,000
C 大会会費収入	300,000	M 事務用品購入費	100,000
D 出版物売上	200,000	N 研究観望会・講演会経費	1,500,000
		O アルバイト料	3,000,000
		P 次回大会準備費	300,000
		Q 手数料支払い	250,000
		R その他	500,000
		S 外貨勘定へ繰入れ	3,360,000
A+B+C+D	30,509,644	E+F+G+H+I+J+K+L+M+N+O+P+Q+R+S	17,660,000
		残 高 (円)	12,849,644
<US\$勘定>		<US\$勘定>	
A' 前年度繰越金	48,728.16	D' IRF 誌購入費	40,000.00
B' 外貨預金利息	200.00	(@25・× 1,600 部)	
C' 円勘定より繰入れ	30,000.00		
A'+B'+C'	78,928.16	D'	40,000.00
		残 高 (ドル)	US\$38,928.16

資料 7

2004年5月29日

学会規約改訂について

「学生会員」規定等の削除

日本ファイナンス学会理事会

第5条の改訂を次のように提案します。

(現行 (下線部分を修正する。))

第5条 1. 本会の会員は、次のいずれかに該当する者で、理事会で審査し、総会の承認を得た者とする。

(1) 正会員 第3条の目的に寄与できる者で正会員2名以上が推薦した者

(2) 学生会員 第3条に掲げる研究を行っている大学院生

(3) 法人会員 第3条に掲げる研究に関心のある法人

(4) 特別賛助会員 本会の目的に賛同し、事業を賛助する法人、団体または個人

2. 新入会員の選考基準については、別途、内規に定める。

(修正案)

第5条 本会の会員は、次のいずれかに該当する者で、理事会で審査し、総会の承認を得た者とする。

(1) 正会員 第3条の目的に寄与できる個人

(2) 法人会員 第3条に掲げる研究に関心のある法人

(3) 特別賛助会員 本会の目的に賛同し、事業を賛助する法人、団体または個人

改訂のポイント

- 1 「正会員2名以上の推薦」「2. 新入会員の選考基準については、別途、内規に定める」を削除する。
- 2 「(2)学生会員 第3条に掲げる研究を行っている大学院生」を削除する。

改訂理由

- 1 新入会員の認定については、ファイナンス研究の広がりとともに、広い層からの学会への関心が強まっており、推薦人二人を見つけることを入会希望者に期待することが実情に合わなくなっています。そこで、上記規定を削除し、当面理事会(常任理事会)における審査に委ねることとします。
- 2 学生会員規定の削除については、次のような理由によります。
 - (1) 最近、学生会員が急速に増加しつつあります。これは、主に社会人大大学院生の増加によるもので、正会員から学生会員へ変更する事態が増えております。
 - (2) 日本ファイナンス学会の正会員年会費(8000円)は、他の学会に比べ低廉ですが、サービスの向上に伴い、かならずしも余裕があるわけではありません。同等のサービスを受けている学生会員においては、学会が提供するサービスに比べ、年会費(5000円)ではコスト割れする状況になっております。提供サービスには、学会誌(現代ファイナンス、IRF)の提供のほか、大会予稿集、研究観望会、特別講演会、その他事務局サービス等があります。
 - (3) 内外学生会員の増加は、会員管理、会費請求、入金確認等財務管理に関わる事務の煩雑さを増やしており、業務遂行上の大きな負担になりつつあります。
 - (4) 学生会員の置かれた状況については理解するものの、上記の事態に踏まえ、今後、学会活動の活発化、サービスの拡充を全会員に平等に進めるために、当面、学生会員制度を廃止し、正会員に一本化することを提案します。

以上

資料 8

2004 年度～2005 年度

日本ファイナンス学会 第 6 期 執行部

		担 当
会 長	川北英隆 (同志社大学)	
副会長	小林孝雄 (東京大学)	学会誌・国際関係
	仁科一彦 (大阪大学)	
理 事	浅野幸弘 (横浜国立大学)	大会関係
	新井富雄 (東京大学)	学会誌
	池尾和人 (慶応義塾大学)	
	大村敬一 (早稲田大学)	総 務
	大橋和彦 (一橋大学)	総 務
	倉澤資成 (横浜国立大学)	
	後藤輝義 (大和住銀投信投資顧問)	財 務
	斎藤 誠 (一橋大学)	
	坂口雄作 (野村ファンドリサーチ&テクノロジー)	
	高野 真 (ピムコ・ジャパン)	
	土岐大介 (ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント)	
	丸 淳子 (武蔵大学)	
	森平爽一郎 (慶応義塾大学)	メディア・ネット等
	若杉敬明 (東京経済大学)	国際関係
	山口勝業 (イボットソン・アソシエイツ・ジャパン)	大会関係
監 事	竹原 均 (筑波大学)	研究観望会
	本多俊毅 (一橋大学)	
	倉田 勲 (金融財政事情研究会)	
(順不同)		以上